令和4年(2022年)2月28日「神木山報」〒216-0031 川崎市宮前区神木本町1-8-1〈つつじ寺〉等覚院内 TEL 044-866-4573 FAX 044-866-4576 https://www.tougakuin.jp

神木山報
shibokusanpou
一隅を照らそう
3月号
338号
毎月28日発行
E-mail:info@tougakuin.jp

日本人のしきたり

住職　中島　有淳

日本仏教の特色は〃神仏習合〃にあるといえます。

神と仏を渾然一体として一緒に受け入れてきたのです。それが明治政府によって〃神仏分離政策〃が推し進められました。神と仏は分けられて祀られ、仏教は大きな打撃をうけたのです。

永い間、一緒に祀られてきた世界が急に別々にといっても所詮人間の気持ちに無理が多く、今日ではまた神仏が手を結ぶ行事も増えてきたと感じられます。

三月は仏教でいう彼岸月です。

日本人は一年で昼と夜の長さが同じである春分、秋分の日を仏道を修行する良い季節と考え、一週間としました。

また、宗教学を学んで覚えたことですが、法事というのは人生五十年と考えた時代に、人が成長する過程と対極に亡くなった人を供養すると不思議と対称になる事がわかります。

通過儀式

- お七夜(命名式)
- お宮参り
- お食い初め
- 初誕生祝い
- 七五三
- 七五三
- 元服
- 大人(成人)
- 結婚
- 子供の初誕生
- 社会人として一人前

死後

- 初七日
- 四十九日忌
- 卒哭忌(百ヶ日忌)
- 一周忌
- 三回忌
- 七回忌
- 十三回忌
- 十七回忌
- 二十三回忌
- 二十七回忌
- 三十三回忌

昔は七才までは命が不安定で、この頃になってやっと命が定まって来たというお祝いです。三十三回忌ともなると大人として社会でも安定された地位を認められ、故人は〃先祖〃として昇進し仲間入りしたと考えられ、生きている人を守ってくれる力をもつようになったと考えられます。

それまでせっせと供養するのです。

供養は香、花、灯明、菓、茶、等など。他に珍しい物を昔はすぐにお供えしたものです。

よく親という字は木の上に立って見守るという意味だとか、親孝行の孝は土という字にノで鋤(畑を耕す)を書き子と書きます。これは子が親のために土を掘る。つまり埋葬を意味し、手厚く葬ること。法事は丁寧にすることだと解きます。土は親の遺した田畑でこれをより良く耕すことに繋がります。

しかし、深く意味するところは最良のお供えは、自身の生き方であり、子が善いことをすれば亡き親は喜び善根を積むことに通じると理解できます。

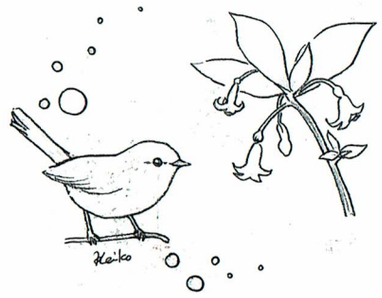
仏教に「生死一如」という言葉がありますが、恵心僧都源信から法然上人へとつづく浄土教は「あの世」を説きますが、誰も還って来ない世界だけに「厭離穢土・欣求浄土」を願ったのでしょう。

折りふしのはな

うぐいすかぐら(鶯神楽)

鶯のさえずり始める頃に
咲くという　鶯神楽
今は　まだ蕾ですが
うぐいすの初音が待ち遠しく
神楽などの開催も
　いつになるやら
各地に連綿と続く伝統行事も
コロナを機に
途絶えることのないよう
切に願い

春を待ち侘ぶ　（遊）



行事案内

◎毎月八日　午後二時
　薬師如来祈祷会　観音経読誦
◎毎月十二日　午後二時
　智泉院法要日（於・日本橋茅場町）
◎毎月十八日　午後二時
　観音経読誦法要（於・神木観音堂）
◎毎月二十八日　午後二時
　不動明王護摩供修行
※マスク着用の上、静かにご参詣下さい
＊毎朝　六時より公開で朝のお勤めをしております
　ご都合のよろしい時には　ご一緒にどうぞ

三月十九日(土)

(一)「止観(坐禅)会」　九時三十分～十時三十分(五百円)

(二)「法華経を読む会」　十一時～十二時(三百円)

＊感染症対策のため人数に制限を設けてます
前以ってお申込み下さい

あとがき

○ついにロシアがウクライナに侵攻。2/24 各地の軍事施設がミサイル攻撃や空爆を受け地上部隊も主要都市に迫っていると。市民も犠牲者が出て深刻。振り下ろしたコブシは納まりません。拡大が心配です。

○二十日、冬の北京オリンピックが閉幕。91ヶ国の参加で日本は18個のメダルで過去最高とか。いろいろ賛否のあった開催でしたが、アスリートにとっては夢の舞台だったことでしょう。

○昨年好評を博した特別展『最澄と天台宗のすべて』の巡回展が九州国立博物館で開催中（3/21まで）。東京の展示も七割が入れ替わり、次いで京都国立博物館でも四月十二日～五月二十二日迄開催されます。機会があれば是非。

○當山に長く続く『不動尊ご巡行』。お世話人のお宅が「御宿」となってそこへお不動さまが出開帳し、順繰り回って寺にまた戻ってくるこの風習は、毎年四月と五月に川崎・横浜地域を回っています。今回、縁あってこの『ご巡行』が東海地方を回ります。三月四日、静岡市。五日、富士市。この様子は三月二十八日の護摩供の後にご報告します。（副住職）

○境内の〃蕗の薹〃を少しつんで蕗味噌を作りました。ほろ苦いその味は寺の早春の味覚です。